

## 申し入れと要請

### 蓮舫代表の戸籍の公開を求める一連の言動に抗議するとともに、 戸籍の公開を断固として許さない

日頃より部落差別撤廃をはじめ人権社会の確立と民主主義社会の発展のためにご尽力いただいていることに敬意を表するとともに、部落解放運動に対してのご支援とご協力を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。また、昨年「部落差別解消推進法」制定の折には、野党第一党としてご奮闘いただいたことに重ねてお礼を申し上げます。

さて、わが部落解放同盟と貴党とは、部落差別の撤廃はもとより、平和と民主主義を守るために、国会内外の多くの場面で協働の取り組みを展開しています。また、全国の各級議会においても、志を共にする貴党の仲間と歩みを共にしています。

これも、差別や人権問題を政治の重要課題として取り組む貴党の姿勢と、これまでの日々の活動のなかで築き上げてきた相互の信頼関係があればこそだと考えています。

然るに、貴党の蓮舫代表の二重国籍を指摘する巷の差別主義的扇動に抗することなく、貴党所属の国会議員のなかから党勢低迷の原因を、「二重国籍問題が最大の障害」などと個人の属性に求める差別主義的な言説が飛び出し、説明責任と称して蓮舫代表に戸籍の公開を求める声が臆面もなく続出している事実、驚愕しています。

今回の民進党内部の騒動に関して、他党からも、「不当な攻撃は断固として跳ね返すべき」と、国政選挙で3回の信任を得てきた蓮舫代表を差別的行為によって引きずり下ろそうとする一連の言動を批判する声があがっていると聞き及んでいます。

また、今回の問題は、昨年9月の代表選に際して、岡田前代表が、「多様性の象徴であり、民進党代表としてふさわしい」、「お父さんが台湾の人だからおかしいという発想があるとしたら極めて不健全だ。日本国籍を取得すれば日本人だし、リーダーになっていけないことは全くあり得ない」と、周囲の喧伝を一掃した発言に尽きています。

日本国籍を有し、外国にルーツを持つことを隠さずに活動してきた蓮舫代表が、差別主義的な扇動に屈服して、戸籍を公開するという誤った選択をすれば、悪しき前例となり、結果として外国にルーツを持つ多くの人々の人権やプライバシーを脅かすことに繋がりがかねません。

また、公党であり野党第一党である民進党も、渦中の当事者である蓮舫代表個人を矢面に立たせつづけることは、民進党は差別に迎合したことになり、国際的にも多くの信頼を失うこととなります。

日本社会には、戸籍に纏わる様々な差別や不利益が存在しています。部落差別もその一つであり、結婚差別や就職差別など、これまでに多くの尊い命が失われてきました。そうした差別を撤廃し、人権を守るために「戸籍の原則非公開」の措置が取られてきたのです。

今回の問題と真摯に向き合うなかで、日本の公党として、自らのルーツを引き受けながら懸命に生きる人々に思いを馳せ、差別や人権問題に取り組む姿勢をあらためて明確にし、常に人々と向き合う政党として、今こそ大同団結して党勢を確立すべく努力することを祈念します。

2017年7月13日  
部落解放同盟中央本部